

令和5年第3回京田辺市教育委員会臨時会会議録

日 時 令和5年8月29日（火）午後2時00分 開会
午後5時00分 閉会

場 所 京田辺市役所305会議室

会議日程

日程第1 議案第44号 令和6年度以降に京田辺市立小学校において使用する教科用図書採択について
日程第2 議案第45号 令和5年度京田辺市立学校教職員（管理職）の人事異動について

出席者

教育長	山岡	弘高
委員（教育長職務代理者）	西村	和巳
委員	藤原	孝章
委員	上村	真代
委員	伊東	明子
（事務局出席職員）		
教育部長	藤本	伸一
教育指導監	上原	正章
教育部副部長	櫛田	浩子
教育総務室担当課長	古谷	隆之
こども・学校サポート室総括指導主事	勝又	靖志
学校教育課長	田原	暁
学校給食課長	西村	明
こども・学校サポート室指導主事	原	健一郎
（事務局書記職員氏名）		
教育総務室担当課長補佐	出島	ケイ
教育総務室再任用主査	鈴木	勝浩

会議の要旨

○開会宣言

教育長が開会の宣言をした。

○日程第1 議案第44号「令和6年度以降に京田辺市立小学校において使用する教科用図書の採択について」

[説明]

(教育長)

京田辺市立小・中学校において使用する教科用図書採択は、京田辺市教育委員会が採択権者として、京田辺市域の児童・生徒にとって最も適した教科書を採択する責任を果たすという観点から、本市が属する山城教科用図書採択地区協議会の協議内容をふまえ、審議の上、採択するもの。

(事務局)

山城教科用図書採択地区協議会で協議された内容を報告する。

全ての教科及び全ての出版社において、現行の学習指導要領の趣旨に基づいた内容となっていた。

採択基準は、「学習指導要領に示す、目標達成のために工夫されていること」、「内容や構成が学習指導を進める上で適切であること」、「使用上の便宜が工夫されていること」、の3点。

また、各基準に付随する観点が、計7点あり、調査報告書に記載されている。

【国語】

[説明]

出版社は東京書籍、教育出版、光村図書の3社で、光村図書の評価が高かった。

東京書籍は、古くから教科書で使用されている文と新しい文がバランスよく掲載されており、高学年に上がるにしたがって、現代的なテーマの教材文が増えている。単元と連動したQRコンテンツを設け、家庭学習にも活用できる工夫がある。

教育出版は、新しい教材文が多く、高学年に上がるにしたがって、現代的なテーマの教材文が増えている。ウェブサイトで資料の閲覧ができる。

光村図書は、古くから教科書で使用されている文と新しい文がバランスよく掲載されているが、古い時代背景をもつ教材文が多い。教科書の内容と連動したコンテンツが閲覧できる。目次の見やすさや目次構成が明確になっている。1年間の学習の流れや系統性・関係性が分かりやすい。単元学習の流れについて具体的なステップがあり、きめ細かな配慮がある。等、協議の上、「光村図書」の教科書が採択された。

[質 疑]

(上村委員)

光村図書は、古くからの教材が多く使用されているとのことだが、令和の時代の子どもたちにとって、古い教材が多いことについて、何か意見はあったか。

(事務局)

東京書籍も光村図書も現代の子どもたちに寄り添うような教材があり、光村図書では、「僕のブックマーク」という世界的な視点を置いた教材もある。また、読みごたえのある昔からの教材も大事にされているという感じは、国語を教える視点として、光村図書から受けたとの話があった。

(西村委員)

児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる工夫は各社されているが、特に光村図書は、学習の進め方や全学年の比較、系統性を確認できると思われる。使い勝手について現場で聞かれていることはあるか。

(事務局)

光村図書は、児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる工夫があり、学習の流れが整理され、理解しやすい点が特徴として挙げられていた。

(西村委員)

「大きなかぶ」という教材が1年生にあり、東京書籍は、1文が長いですが、光村図書は、主文がいいところで改行され、読みやすい工夫がされている。単元の最後に学習の進め方があり、光村図書は子ども目線で上手く構成されていると感じた。

(藤原委員)

3社に共通する教材に、4年生の「ごんぎつね」があるが、光村図書はシンプルで本文を重視しており、教師が使いやすいと感じた。東京書籍はQRコードが教師の下調べには良いが、児童が本文をしっかりと学習するには光村図書が良いと感じた。

(上村委員)

各社ともQRコンテンツが充実しているが、光村図書の特徴は。

(事務局)

光村図書は、情報がシンプルで、教科書の教材文を中心に授業を進めていくという視点では、児童が主体的に学びやすい、ということであった。

(教育長)

まとめると、児童が主体的に学びやすい教材文になっている。学習の流れや、単元ごとのステップがわかりやすいよう配慮されている。読みやすい改行の工夫がある。QRコードはシンプルで、児童にも教員にも使いやすい。等から、国語は「光村図書出版」がよいという意見であった。

【書写】

[説明]

出版社は東京書籍、教育出版、光村図書の3社で、東京書籍の評価が高かった。教育出版は、目次で1年間の学習の見通しが持ちやすい。学級新聞やポスターなど他教科や学校生活に生かす教材が取り上げられ、SDGsや海外の文字文化の資料も掲載している。

光村図書は、動画やアニメーションなどの資料を取り入れ、単元ごとに学習のポイント、巻末に学年の学習のポイントが掲載されている。4年生にSDGsブックの付録がある。書写体操も掲載されている。

東京書籍は、目次の中で、小学校全体で学ぶ学習内容、当該学年の学習内容を示し、そこに各単元のつながりが示され、わかりやすい。絵日記や生活作文など、国語と連動させた言語活動を取り上げている。「リンクマーク」をつけ、他教科等との関連の意識づけを図っている。3社の中で最もしっかりとめあてが書いてある。シンプルな形で見やすい。一番の基本である書くということを落ち着いて取り組める工夫がある。等、協議の上、「東京書籍」の教科書が採択された。

[質疑]

(伊東委員)

落ち着いた時間の中で文字を整えて書くことが書写の一番のめあてであり、児童がコツやポイントに気づきやすい工夫がされていると思ったのは東京書籍であった。児童にとってどんな表現がわかりやすいか、という意見はあったか。

(事務局)

書写の授業では、落ち着いた状態で書くことを大切にするという考えから、東京書籍は、必要なことを最小限にきっちりと抑えている。めあてがはっきりしていて、教科書に色分けして書いてあり、今日は何に気をつけて書けばいいかが分かりやすいという報告があった。

(伊東委員)

子どもたちの自主的な学びの助けとして、教科書の表現やイラスト等、おすすめできる部分はあったか。

(事務局)

3社に共通して、ユニバーサルフォントの使用、左利きの児童にも配慮した工夫がある。東京書籍は、印刷の画質がきれいで、鉛筆の止め・はね等の細部までしっかりと表現されており、ブルーを基調とした落ち着きのある配色になっている。

(西村委員)

QRコンテンツの各社の特色は。

(事務局)

各社とも、動画やアニメーションが収録されており、児童にとってわかりやすい工夫がされているが、東京書籍と光村図書は、動画解説にナレーションがあり、聞きながら理解しやすい特徴がある。

(教育長)

まとめると、シンプルな形で見やすく、子どもたちにもよくわかる目当てが書いてある。「書く」ということに対して落ち着いて取り組める工夫がある。動画解説も理解しやすい。等から、書写は「東京書籍」がよいという意見であった。

【社会】

[説明]

出版社は東京書籍、教育出版、日本文教出版の3社で、日本文教出版の評価が高かった。

東京書籍は、親しみやすいドラえもんのキャラクターのつぶやきや、学び方コーナーで、学習の進め方や話し合いの仕方をわかりやすく提示している。

教育出版は、毎時間「学びの継続性」を意識させる工夫がある。まとめるページでは、文章にまとめる、発表する、話し合うなどの多様な活動の例を紹介し、また「自分で調べて考える」の項目に調べ学習の視点等が提示されている。

日本文教出版は、1時間の学習課題が明示されている。見方、考え方の欄には「空間・時間・関係」のアイコンがあり、視覚的に意識しやすい。「学び方・調べ方」コーナーを設定し、観察や見学、表現活動などの質を高める手立てとしており、タブレットを活用したまとめ方も提示している。近畿地方の市町を多く取り上げ、児童が主体的に学習に取り組む配慮が見られる。話し合い活動に繋がる学習中の課題点を考える場面が数多くあり、身近な生活から学習問題を発見し、追求解決していく流れになっている。学習の進め方、教科書の使い方等、ヒントがたくさんあり学習しやすい教科書になっている。等、協議の上、「日本文教出版」の教科書が採択された。

[質疑]

(藤原委員)

日本文教出版の、空間・時間・関係のアイコンは、児童の学びや教師の指導にどのようなメリットがあるか。

(事務局)

空間はどこに何があるのか、時間はどのように移り変わってきたのか、関係はどのようなつながりがあるのか、という視点で、日本文教出版が一番明記されており、児童の学習活動にかなり深く意識できるという意見であった。

(藤原委員)

それは、他の出版社ではどうか。

(事務局)

他の出版社にもあるが、日本文教出版はより視覚的に明記されており、他の2社とは違う特徴になる。

(藤原委員)

日本文教出版は、山城地方の児童に身近な近畿地方の市町を多く取り上げているが、他の出版社はどうか。

(事務局)

教育出版は、京都市や京都は取り上げられていない。東京書籍は、京都市の鴨川が取り上げられている。日本文教出版は、6年生で、舞鶴の引き上げについて、日本三景である宮津の天の橋立、雪舟に関連した内容等、京都府に関する内容が多く取り上げられており、他にも奈良県、和歌山県といった近畿地方は、かなり多く取り上げられている。

(西村委員)

日本文教出版が、身近な近畿地方の市町を多く取り上げている事は、児童の主体的な学びにプラスになると考える。

(藤原委員)

日本文教出版は、歴史学習の中でSDGsを意識させていた。空間・時間・関係のコンセプトが歴史学習にも生かされており、良い視点であると思う。

(西村委員)

日本文教出版は、消費税の税率引き上げや選挙の投票率、待機児童、核家族、等、身近な課題が取扱われ、良い教材だと思った。

(教育長)

まとめると、「日本文教出版」が、学習における課題や問題点が明確にされている。空間や時間のつながりがわかりやすく、子どもたちが深い意識を持った学習や話し合い活動が行える。京都や近畿等身近な地域が多く取り上げられている。タブレットの活用方法の提示。歴史の中でSDGsを意識させる視点。今日的な課題をしっかりと投げかけている。等から、社会は「日本文教出版」がよいという意見であった。

【地図】

[説明]

出版社は東京書籍、帝国書院の2社で、帝国書院の評価が高かった。

東京書籍は、日本の位置、領土、地理的環境の特色、自然災害と防災などについて正確な理解が図れるよう工夫されている。日本の歴史文化に関する内容が

充実している。基礎的な読図機能と活用法を身に付けられるよう、イラストや写真を用いて解説している。また47都道府県をクイズ等で興味関心を高められるよう工夫している。

帝国書院は、日本の歴史文化に関して理解を深められるよう工夫しており、日本の領土の範囲、都道府県の名称と位置が捉えやすい。児童の発達段階に配慮して、読み取りやすい地図から詳しい地図まで使い分けられる。地図マスターへの道というコーナーを全100問設け、地図活用技能が身に付けられる。記号凡例や地図上の使い方も巻頭ページで丁寧に解説している。「広く見渡す地図」ということで、東京書籍が100万分の1なのに対し、帝国書院は160万分の1の地図を配置し、3学年の地図導入期への配慮が見られる。ページ数の増加は学習の上でプラス材料になっている。6年生の歴史学習にも活用できる。地図として見やすく、地図活用導入にも対応しやすい。等、協議の上、「帝国書院」の地図帳が採択された。

[質 疑]

(藤原委員)

帝国書院は、ページ数が増えているが、どんなところが充実されたのか。

(事務局)

帝国書院と東京書籍の大きな違いは、巻頭に詳しく地図の使い方についての説明がされているというところである。3年生の地図導入期では教科書だけでなく、地図帳にそれが記載されていることが、指導がしやすいのではないかという意見であった。また、帝国書院の特徴である、160万分の1の地図は、情報がすっきりと整理され見つけやすく、活用しやすいという意見であった。

(藤原委員)

地図帳の本来の役割として、各出版社の特徴はどういったものか。

(事務局)

各社の工夫はあるが、帝国書院は、土地の高さによる色分けと土地の使われ方の色分けが、視覚的にわかりやすい。またフォントの大きさ、文節、改行にも配慮している。手話による都道府県の表し方も紹介している。歴史学習との関連も見られ、イラストで地図上に表記されるなど、地図帳としての情報量は多い。

(西村委員)

ページ数は今回の改訂で増加したものか。

(事務局)

2社とも、現在のものとの変更点は、QRコンテンツの充実であり、NHK for スクールと連動したり、いろんな地域の様子を見られるようになっている。

(教育長)

まとめると、「帝国書院」のページ数増加が、学習上のプラス材料になっている。160万分の1の地図は見やすく、3年生からの導入にも対応しやすい。6年生の歴史学習にも活用できる。視覚的にもフォントや手話等の工夫がされている。等から、地図は「帝国書院」がよいという意見であった。

【算数】

[説明]

出版社は東京書籍、学校図書、大日本図書、教育出版、啓林館、日本文教出版の6社で、啓林館の評価が高かった。

東京書籍は、デジタルコンテンツ数が1,450あり、練習問題が豊富で、正誤判定機能があり、児童がつまずきを把握しやすい。単元の前半は資質能力を確実に育むために、吹き出しや補助発問などが設定され、丁寧に進められているが、単元の中後半は、前半に培った資質能力を発揮し、問題解決できるよう、吹き出しや補助発問を意図的に減少させる設定になっている。

学校図書は、9つの見方・考え方を、考え方モンスターとして表し、児童が興味・関心を持って学習できるよう配慮されている。また、紙面がAB版で、他社より少し大きいため、紙面に余裕があり見やすく、分度器やコンパス等の作業もしやすい。

大日本図書は、デジタルコンテンツ数が1,445あり、動画のコンテンツが多く、コンパスの動画など、作業的内容と練習問題がたくさん入っている。数学的な見方・考え方を働かせたい場面でキャラクターを登場させ、児童に意識させるようにしている。また、保幼小連携という点で、入学初期の内容をA4版で別綴じにされており、1年生であるブロック作業などをしやすい工夫がされている。

教育出版は、デジタルコンテンツ数が591あり、つまずきが予想される場面は丁寧な説明がされている。単元導入部分は、身近な題材から算数の問題を発見し、目的意識を持って数学的活動に取り組めるよう工夫されており、単元末については、学習したことを日常場面に活用し、何ができるようになったのかを実感できるようにしている。

日本文教出版は、デジタルコンテンツ数が838あり、問題を解くヒントや答えが全ての問題に表示されている。また、保幼小連携については、幼児期の活動と算数のつながりが絵本仕立てで描かれている。小中連携については、5年生6年生で中学の学習において特に必要と思われる単元にマークがついており、児童が意識を持ってスパイラル的に学習できるようになっている。

啓林館は、個別最適な学びという視点で、デジタルコンテンツ数が1,614

入っており、その中で解説動画数が970と、6社の中で一番コンテンツ数が多い。学習の解説動画が豊富で、児童の学び直しや、家庭学習での活用ができる。また、基礎基本の定着という部分で、補充問題や挑戦問題が用意されており、習熟度に応じて取り組むことができる。毎時間のめあてと、それに対してのまとめが提示されており、1時間の配分が見開きまたは1ページとなっている。学習の目安が大変わかりやすく、児童が自らの問いや学習の見通しを立て、主体的・協働的に、よりよい解決に向かうことができる。紙面がシンプルで見やすく、子どもたちにとって理解しやすい教科書になっている。等、協議の上、「啓林館」の教科書が採択された。

[質 疑]

(西村委員)

今回の改定でデジタルコンテンツが増えたが、各社の特徴は。

(事務局)

圧倒的に数が多かったのは啓林館で、約半分以上が解説動画になっている。東京書籍は、デジタルコンテンツ数が2番目で、正誤判定ができるところが唯一他社にない特徴となっている。啓林館は、解説動画の活用で、個に応じた学びや学び直しができるという点が大きな特徴といえる。

(西村委員)

指導方法の一貫性が大事だと考えるが、これまで使用している啓林館の教科書で問題点等はなかったか。

(事務局)

1回の授業で必ず身につけることが難しい児童もいるが、解説動画の多い啓林館は家庭学習等で活用でき、理解につながると考える。

(教育長)

算数嫌いを作らないよう、苦手な児童が理解しやすいよう工夫された教科書について、調査員の意見は。

(事務局)

6社ともいろいろ工夫はされているが、例えば、わり算の筆算の説明で、啓林館がキーワードをたくさん強調したり、活動過程を細かく説明されたりしてわかりやすいという報告があった。

(藤原委員)

幼・小、小・中の縦の系統性で、各社の特徴はあるか。

(事務局)

デジタルコンテンツの解説動画が一番充実しているのが啓林館で、わからないところは家庭でも学び直しができ、前の学年を振り返る等の手助けになる。

(教育長)

まとめると、デジタルコンテンツとして最も解説動画が充実しており、個別最適な学びや家庭学習での活用もでき、縦の系統性にも配慮されていること。算数嫌いができないよう工夫されていること。等から、算数は「啓林館」がよいという意見であった。

【理科】

[説明]

出版社は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5社で、啓林館の評価が高かった。

東京書籍は、巻頭QRコードで期待感を高めるアニメーション動画がある。学習の流れの見える化は、問題をつかむ・調べる・まとめる、を1本のラインで図示し、どの児童にもわかりやすいよう工夫されている。全体的に情報量を抑え、見やすくすっきりした大型紙面である。

大日本図書は、「自然から学び、科学的に考える」をコンセプトとし、どのページにも同じ箇所にQRコードを配置する、わかりやすい工夫がある。問題解決力を育成するよう、学び方のガイダンスが丁寧に示され、次世代育成を見据えた、協働的な学びを促すような話し合いや発表の場を設ける工夫がある。

学校図書は、「みんなと学ぶ」をキーワードに、見える教科書・つながる教科書・広がる教科書という3つのポイントが挙げられている。広がりについては、子どもたちが単元で学んだことを、更なる興味関心に広げられるよう、自由研究へつなげる工夫が見られる。また冒険という世界観を教科書に広げている。

教育出版は、「なぜが見つかる教科書」で、子どもの気づきから問題を作り学びが始まるよう、レイアウトや文言の工夫がされている。「問題解決の流れがわかる教科書」で、学び方のガイダンスが丁寧に示されている。「みんなが理科を好きになる教科書」で、振り返りや確かめ問題を充実させることで、子どもたちがより理解できるような工夫がされている。

啓林館は、わくわくが膨らむ・学びがくらしにリンクする・学びが未来に繋がる・問題解決×ICT活用、をコンセプトに挙げており、全体的に問題の設定、単元を通した問いが生活と結びつけられ、よく工夫されている。各単元末にあるまとめノートでは、学びをノート形式で整理できるとともに、情報活用能力や問題解決の力を育むCBT問題を新設し、補充問題にも取り組むことができるのが特徴である。全単元末にある「くらしとリンク」では、理科の有用性を感じさせたり、働く人のインタビューを載せてキャリア教育に繋げる工夫がある。実験や観察のわくわく感や、協働的な学びの視点で、イラストや写真などが効果的に使われている。理科と算数を同じ会社で取り組むことは、より好ましいのではな

いか。等、協議の上、「啓林館」の教科書が採択された。

[質 疑]

(藤原委員)

理科は科学的思考を育てる重要な教科である。理科の見方・考え方を育てる工夫のある教科書は。

(事務局)

子どもたちの生活に密接な問いが設定されているのは啓林館。例えば、てこをどのように使えば重いものを小さな力で持ち上げることができるか等、子どもたちの実生活に密接に繋げるよう考えられている。東京書籍はシンプルで、どの子にもわかりやすい紙面設定が見られる。学校図書は、冒険の設定で、つけていく力をモンスターで表現しているのが子どもたちにとって面白く感じられる。

(藤原委員)

科学的な思考力を育てることと、科学を実社会にどう役立っているのかといった、実社会へのつながりで特徴的な教科書は。

(事務局)

啓林館は、「発展」として、中学校で学ぶ内容を紹介している。また、キャリア教育、プログラミング教育、SDGs、スチーム教育、家庭と地域との連携等、多様な視点で学びを繋げようという意識が高く、有名人へのインタビューや、自由研究等の特集ページがあり、学びが広がる工夫がある。

(藤原委員)

理科の教科書は、平成4年度から啓林館を採用しているが、今回特に秀でた特徴があるか。

(事務局)

単元末にある「くらしとリンク」で、理科の有用性を感じさせる工夫がある。また、ICTを活用したコンテンツ等の充実もこれまでとの違いと捉えている。

(藤原委員)

理科と算数が同じ会社であることが好ましいという説明があったが、算数でSDGsと関連したグラフ等は啓林館しかないことも考えると、啓林館は理科と算数で、現代的な課題であるSDGsに貢献できるのではないかと思う。

(教育長)

まとめると、子どもたちの生活に密着した内容で、実験や観察するための探究心をもつ工夫が考えられており、1人学びだけでなく、グループ学習での協働的な学びの視点で、イラストや写真などが効果的に使われていること、また、「発展」として中学校への接続や実社会との結びつきも考えられている。SDGsの視点がしっかりと盛り込まれている。等から、理科は「啓林館」がよいという意

見であった。

【生活】

[説明]

出版社は東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、啓林館の6社で、啓林館の評価が高かった。

東京書籍は、学習課題の提示から、めあての把握、体験活動や調べ学習の方法、まとめや表現活動の仕方などが具体的に示されており、基礎・基本となる学習内容が確実に定着できる構成となっている。スタートブックが別冊であり、保護者にもスタートカリキュラムの重要性をわかりやすく表示している。学習に必要な知識や技能を掲載した「べんりてちょう」と、ポケット図鑑が設けられ、児童の主体的な学びを導く工夫がされている。QRコンテンツは、單元ごとに解説され、児童が使用する上でわかりやすい。

大日本図書は、具体的な活動や体験を通して、生活技能等が身に付くように工夫されている。低学年児童の読みやすさに配慮が見られ、動画コンテンツが充実している。

学校図書は、五感を使った体験活動を繰り返し行う調べ学習によって、理解の深化を図る工夫がある。理科や社会、総合的な学習の時間等との関連を考慮した学習活動が提示されている。

教育出版は、身近な人々、社会及び自然と繰り返し関わる体験活動が十分に設けられている内容や構成になっている。児童が学習に興味を持つよう写真等を工夫したスタートブックがあり、QRコンテンツから動画やワークシートも見ることができる。

光村図書は、児童が学習の流れをつかみやすい構成になっている。社会や理科への接続を図った構成となっており、情報活用能力の育成を図る活用例の掲示がある。

啓林館は、学習のステップをわかりやすく明示し、わくわくしている、生き生き友達と活動、ぐんぐんみんなで伝え合うの3ステップで構成され、單元内の各ページにも学習パターンが明示されている。また、見開きページには、次の段階に繋がるリードが明示されており、活動の連続性や広がり、深まりを意識することができる。スタートブックが別冊であり、児童や保護者にとっても安心や意欲を持つよう、資料等の工夫がある。また、生活科の活動を楽しむための調べ方や活動のヒントや、安心・安全に関する内容等が充実している。デジタルたんけんブックは單元ごとにわかりやすく配列され、児童が自ら調べやすいよう工夫されている。ボタン1つで動画を見たり、音を聞いたり、詳しく見たり、付箋を貼ったりできるようになっている。子どもたちが主体的に学びやすく、学習意

欲に繋がる工夫が見られ、総合的にバランスよく整っている。安心・安全が強調され、スタートカリキュラムが整っており、保護者から見ても、安心して新しい教育システムに繋がっていけるような教科書である。等、協議の上、「啓林館」の教科書が採択された。

[質 疑]

(上村委員)

入学したばかりの子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいける工夫など、特徴的な出版社は。

(事務局)

啓林館は、資料が大変多く、子どもたちが調べに外に出てみたいと感じるような資料の配列が優れている。QRコードも、そのまま答えがわかるような動画ではなく、もっと調べたくなるというところに重点を置いている。

(伊東委員)

幼小接続という視点で、本市はスタートカリキュラムを整え、小学校生活に円滑につながるよう取り組んでいるが、そのあたりで本市の現状にあう出版社はあったか。

(事務局)

各社とも、スタートブック等を掲載し、児童や保護者にスタートカリキュラムの重要性を示しているが、啓林館と東京書籍は、それを別冊で用意しており、より配慮が感じられる。

(上村委員)

子どもたちが主体的に学習にとりくむことができる工夫について、啓林館の「デジタルたんけんブック」の特徴は。

(事務局)

「デジタルたんけんブック」は子どもたち自ら調べやすいよう、付箋・ペン機能があり、児童の学習意欲向上にもつながる工夫が感じられる。

(伊東委員)

中学年に向けて社会・理科への継続が重視されるが、その観点から特徴のある出版社はあったか。

(事務局)

協議会で評価がよかったのは、啓林館と東京書籍。この2社は、植物、生き物等の資料が大変多く、育て方、どのように育つか等、理科を意識した資料が特徴である。特に啓林館は、安心・安全、外への見学といった資料等を揃えており、中学年へのつながりも意識されている。

(西村委員)

生活科の大きな狙いの一つは子どもたちの体験をどれだけ積むかというところで、学校外の活動も多いが、京田辺市に合う活動が掲載されている教科書は。

(事務局)

山城の協議会では、京田辺市だけについての意見はなかったが、京田辺市は自然が多いので、自然の資料が多い啓林館は合うのではないか。

(教育長)

まとめると、子どもたちが主体的に学びやすい資料の配列、QRコードによる動画の活用などが優れており、理科、社会との関連や中学年への接続が意識されている。等から、生活は「啓林館」がよいという意見であった。

【音楽】

[説明]

出版社は教育出版、教育芸術社の2社で、教育芸術社の評価が高かった。

教育出版は、多くの教材を用意し、多面的に学習できるようにしている。系統性のある題材の配列で、資質・能力を育みながら学びが深まる構成の工夫がある。文字数が抑えられ、写真も多く使われ、子どもたちにとっては見やすい。学習方法の提示の中で対話を促す場面が取り入れられ、3年生以上ではキャラクターによる話し合い活動例が示され、言語活動を充実させ、自分の考えを持てるようにしている。

教育芸術社は、全学年・全題材において「何を学ぶか」、「何ができるようになるか」を明確に示し、そのための学習活動を提示し、学習指導要領が示す目標が達成できるような工夫がある。6年間を見通した題材を各学年に設定し、題材のねらいに即した教材を配列し、系統的な学びができるよう工夫されている。考える・見つける・歌う・演奏する・作る、というアイコンがわかりやすく掲示されている。題材の最終ページごとに学習を振り返る問いかけがあり、自分の学びを振り返ることができる。思考力・判断力・表現力等を育成する場面においては、キャラクターによる話し合い活動例を示し、言語活動を充実させ、自分の考えを持てるようにしている。等、協議の上、「教育芸術社」の教科書が採択された。

[質疑]

(上村委員)

音楽の学習指導の進め方や今後の指導に関して、学びの目標が明確にされているという点で教育芸術社が良いと思ったが、何か意見は出ていたか。

(事務局)

音楽は、初めて指導する教員や苦手と思う教員もいる中で、教育出版の方は、指導をやればやるほど伸びるという意見で、教育芸術社の方がどんな先生でも同じように指導できるのではないかという意見が出ていた。

(上村委員)

教育芸術社は全ての題材にQRコードが付いているが、使い勝手についての評価は。

(事務局)

現在、教育芸術社の教科書を使用しており、同じ内容のものが多いという印象。曲ごとに楽器の使い方や曲の特徴などを示したQRコードとなっており、譜面を見てわからなくても、音を聞けばわかるという内容になっている。

(教育長)

まとめると、何を学ぶのかがより明確な内容となっている。子どもたちの表現や感性を伸ばせる。音楽があまり得意でない教員でも指導しやすい。等から、音楽は「教育芸術社」がよいという意見であった。

【図画工作】

[説明]

出版社は開隆堂と日本文教出版の2社で、日本文教出版の評価が高かった。

開隆堂は、学習のめあてが簡潔で、児童にとってわかりやすい言葉で明示されている。青色の工夫さん、黄色のひらめきさん、赤色の心さんのキャラクターが登場し、3つの育てたい力を提示する工夫をしている。学習の振り返りの観点が焦点化され、何について振り返り、書いたり話し合ったりすれば良いのかがわかりやすく、学習のめあても意識化しやすい。協働で取り組む活動の様子や話し合い活動の様子の写真掲載が多い。

日本文教出版は、情報がシンプルにまとめられ、発達段階に応じた内容となっており、単元導入時の言葉掛けがわかりやすく、児童の創作意欲が沸き立つものとなっている。学習のめあては、赤色の手のマーク、青色の電球のマーク、緑色の顔のマークのシンプルな形で示している。学習活動の見通しと振り返り、表現と鑑賞を関連させ、児童が主体的に学習に取り組みやすい構成となっており、本単元での学びを、次の活動に生かしていきたいと思えるような表記の仕方になっている。学習の連続性も感じながら、児童の学習意欲を向上させる工夫がある。楽しい授業になる工夫があり、教員が取り扱いやすい。子どもたちにとっては日本文教出版の方が見やすく、文章もわかりやすいということ。等、協議の上、「日本文教出版」の教科書が採択された。

[質疑]

(伊東委員)

子どもたちが作品制作をするにあたり、最初の設定や過程で色々な表現を引き出すことが重要と考えるが、子どもたちや先生方にとってよりイメージが膨らませやすい写真や吹き出しの工夫がされている教科書について、意見は出ていたか。

(事務局)

日本文教出版は、子どもたちが実際に活動している様子を掲載しており、中にはマスク姿の様子もあり、実際の学習場面で使いやすいのではという感想があった。

(西村委員)

図工は活動が多いため、教科書をどう使うかや、子どもたちに、めあてや学習の筋道をしっかりとイメージさせることが重要であるが、日本文教出版は、単元のねらいがしっかりと明記され、実際の学習の様子の写真やコメントも掲載され、使い勝手が良いと思う。またマスクをしている写真があるのはこの教科書だけで、コロナ禍もしっかりと子どもたちの学習の記録を取られる熱意を感じた。

(藤原委員)

他教科との関連で特徴的なことはあったか。

(事務局)

2社とも、SDGsに関わる内容等、今日的な課題に触れた特徴がある。大きな違いとしては、開隆堂は、社会と関わる事例や伝統文化、国際理解といった多方面につながる内容を取り上げている。日本文教出版は、道徳科との関連が充実しており、高学年では、ゲルニカやキャリア教育の視点を取り入れた鑑賞教材がある。また、プログラミング教材を使った活動の紹介もある。

(教育長)

まとめると、情報がシンプルにまとめられている。活動のねらいがしっかり明示され、単元の学習を次の活動へつなげることができる。実際の活動の様子、特にコロナ禍における現実も捉えており、自動が主体的に取り組める内容になっている。等から、図画工作は「日本文教出版」がよいという意見であった。

【家庭科】

[説明]

出版社は東京書籍と開隆堂の2社で均衡していたが、開隆堂の評価が高かった。

東京書籍は、題材名が学習を通して目指す児童の姿となっている。家庭科室を探検する題材があり、児童が準備、片付け、作業動線などを理解した上で学習を行えるよう配慮されている。QRコンテンツの動画が工程別に詳しく紹介され

ており、苦手な児童にとって、よりよい手立てとなる工夫がある。

開隆堂は、学習のめあてを3つのステップで示し、学習の見通しをもちやすく工夫している。年代、国籍など多様性を意識した写真やイラストが掲載されており、教材の配色や柄についても、LGBTに配慮し、固定概念を持たせないよう工夫されている。ミシン縫いや手縫いの説明では、写真とイラストを織り混ぜ、児童が見て真似ることができるよう丁寧に扱い方が掲載されている。手元は必ず写真を使い、掲載の仕方も横1列で、大変見やすい。手縫いの制作物と野菜のカットが実物大で掲載され、イメージを持ちにくい児童にとって大きな手立てとなる。現場が使いやすい教科書である。多様性に配慮され、子どもたちが固定観念をもたずに、いろいろなことを学べる。等、協議の上、「開隆堂」の教科書が採択された。

[質 疑]

(伊東委員)

2社の評価が均衡していたという説明であったが、その中でもどちらがいいという意見はあるか。

(事務局)

調査員も悩んでいる様子であった。動画でいえば、開隆堂は、ページごとに読み取る必要があるが、東京書籍は、1回違う単元で読み取ればよいという便利さがある。しかし、配慮を要する子どもたちに対して、東京書籍は情報量が多すぎるのではないかという意見があった。開隆堂は、情報量が厳選されすっきりしており、写真の掲載の仕方にも分かりやすい工夫があるという意見が出ていた。

(伊東委員)

実際に見てみて、東京書籍の情報の豊富さは、大人の目からは楽しい印象を受けたが、現場の教員や子どもへの影響を考えると、情報量が多いことが一概に良いとは言えないと感じた。開隆堂は文章と写真の構成がまとめられ、見やすく、よいと感じた。子どもたちが学んだことを、実生活と結び付けるような2社の特徴は。

(事務局)

東京書籍は、「生活の課題と実践」というものが3回設定されており、子どもたちがよりイメージをもって実践へと生かすことができる工夫がある。開隆堂は、生活の見方・考え方の4つの視点を活かした実践例が紹介されており、課題解決型学習が行えるよう配慮されている。また、調理例と制作例には難易度を星の数で示し、学活動意欲の向上を図るとともに、自分で選ぶ際の指標となる工夫も見られ、より実生活での実践に結びつきやすい。

(藤原委員)

家庭科は衣食住や地域での身近な生活という点で、SDGs と関連が深く、2 社とも SDGs と関連しているが、開隆堂は、臨時的消費ということばや、持続可能な社会のための循環の図、6 年生の最後でキャリアにつなぐ構成がある等、家庭科と社会のつながりを意識している特徴があり、開隆堂がよいと思う。

(教育長)

まとめると、情報量が適切であること。構成が学習者にわかりやすい。SDGs や社会とのつながりについてしっかりと記載されている。性別、年齢、国籍、障害、LGBT など、多様性に対しても配慮されている。等から、家庭科は「開隆堂出版」がよいという意見であった。

【保健体育】

[説明]

出版社は東京書籍・大日本図書・大修館書店・文教社・光文書院・学研の6社で、東京書籍の評価が高かった。

大日本図書は、折り畳みページで、つかもう・考えよう・調べよう・活かそう、という流れで構成されている。つかもうでは資料を見て、解答を予測し、考えよう・話し合おうという活動で意見を交流し、思考を深める工夫がされている。

大修館書店は、身近な生活の中から課題をつかみ、学習の見通しをもつ、課題を解決するための活動する、学習をまとめるという3つのステップで構成されている。それぞれの時間の最後に、Webクイズがあり、タブレットを用いて解くことで、学んだ知識の確実な習得を促すよう工夫している。

文教社は、学習内容がわかりやすくなるよう、犬キャラクターが課題を投げかけ、子どものキャラクターが児童に共感できる意見を発言し、先生のキャラクターがまとめるという構成のもと、授業の流れがうまくまとまるように考えられている。

光文書院は、見つけよう・学習の課題をつかむ・学習課題に向けて学習活動をする・学習をまとめる・自分の生活に生かす、の5つのステップで構成されている。

学研は、導入・自ら取り組む活動及び対話的な活動・活用、の3つの大きな枠で構成されている。QRコードを利用してふり返しシートを取ることにもできる。写真やイラストなどが多く使われ、導入段階で生活体験、経験を具体的に振り返る場面を設定されている。

東京書籍は、学習の進め方を4つのステップで構成し、全ての単元が同じ構成となっているため、子どもたちは見通しをもって学習に取り組むことができる。QRコンテンツは各ページにそれぞれ必要な資料がまとめられ充実している。自分の考えを記述する欄もあり、記入スペースの工夫がされている。生活とのつ

ながりや他教科のつながり、QRコードがスムーズに使える工夫などがある。一番わかりやすい。等協議の上、「東京書籍」の教科書が採択された。

[質 疑]

(藤原委員)

体の健康と心の健康の2つが重要なポイントとなるが、まず、体の健康について、各社の特徴はあったか。

(事務局)

4年生のからだの発育発達の学習で、男女の体の写真やイラストの取り扱いについて、東京書籍はQRコードで3D画像を動かして見ることができ、わかりやすいということであった。

(藤原委員)

不安や悩み等、心の健康について、各社の特徴はあったか。

(事務局)

協議会で特に意見はなかったが、「不安や悩みがあるときの相談窓口」の記載は各社の教科書にあった。

(藤原委員)

近年、新型コロナウイルス感染症が社会でまん延したが、そういった社会との関わりで各社の特徴はあったか。

(事務局)

自分の生活に振り返るというところで、書き込みをすることで振り返る教科書が多い。東京書籍はQRコードを使用し、自分の今後の生活について、自分の考えを周りの子と話し、考えを書き込む欄があることは特徴の一つである。

(伊東委員)

東京書籍の報告にあった4つのステップについて、具体的な説明を。

(事務局)

ステップ1は自分の身近な例から健康課題を見つける。ステップ2は調べたり、話し合ったりする活動。ステップ3は既習事項をもとに筋道を立てて説明する活動。ステップ4でこれからの自身の生活にも目を向け、どのようにしていったらいいのかを問いかけ、まとめて終わるという4つのステップになっている。

(教育長)

まとめると、4つのステップでの構成により筋道をたてた授業が行えること。QRコードによる画像の内容が3D等わかりやすく効果的であること。生活や他教科とのつながりがわかりやすいこと。等から、保健体育は、「東京書籍」がよいという意見であった。

【外国語(英語)】

[説明]

出版社は東京書籍・開隆堂・三省堂・教育出版・光村図書・啓林館の6社で、光村図書の評価が高かった。

東京書籍は、6年生の教科書では、どのページにも英語で書き込む箇所が設けられ、読むこと・書くことにも重点が置かれている。アニメーションの動画を多彩に取り入れたQRコードで、内容は多い。アルファベットをなぞる方向に細かな矢印が示され、筆順が分かるようになっている。

開隆堂は、Sounds and Letters で無理なく書く活動が設定されており、中学校での書くことにスムーズな接続を図ることができる。音声中心のQRコードが多くあり、授業の中で使うものとしている。

三省堂は、ABCファンボックスで、読むこと、書くことの活動を、スモールステップで積み重ねる工夫がある。QRコードの動画は少ないが、アニメーションではなく、実在の人物が実写で出演し、具体的な学習活動の絵が示されている。

教育出版は、ワークシートのように書き込みながら学習ができ、指導者、学習者ともに、見通しをもって取り組みやすい。QRコードの動画は少ないが、学習活動が実写で示されている。

啓林館は、繰り返し学習することで、語句や表現に慣れ親しめるよう、インプット活動とミニアウトプット活動というものを組み合わせている。QRコードの内容がかなり多く、音声、動画ともに充実している。

光村図書は、書き込み部分は他社に比べて少ないが、振り返りについては具体的に分かりやすく、友達同士で尋ね合うような学習活動が示されている他、学習活動の示し方の自由度が高い。QRコードの内容が多く、家庭学習等でも活用できる。サイズがA B判で、一回り小さく整理がしやすい。子どもたちの実態に応じた指導の展開ができること。学習活動の示し方に自由度があり、指導者が授業を柔軟に工夫できる。これからの教育は少なく教えて多く、深く学ぶということがコンセプトになっていくこと。小学生で初めて英語に触れ、いろんな経験をしながら英語に慣れ親しんでいくことが大切だということ。等協議の上、「光村図書」の教科書が採択された。

[質疑]

(上村委員)

光村が、子どもたちの実態に応じた指導の展開ができると思う。今は東京書籍を使用しているが、変更になった場合、現場の教員や子どもたちに支障はないかどうか、協議会で意見は出たか。

(事務局)

協議会で直接取り上げられてはいないが、代表調査員の報告の中では、学習内容の履修漏れや、指導事項も確認し、現行の教科書と大きくずれ込むことはなく、スムーズに移行できると捉えられていた。

(上村委員)

本市において、外国語の教科書が変わることのデメリットは。

(事務局)

教科書が変わってもスムーズな移行ができるという代表調査員の報告であり、問題はないと捉えている。本市の事務局担当としての見解であるが、来年度から中学校の教科書と同じ教科書会社になることで、本市の小中連携やALTの活動等、義務教育を9年間で見通した指導として、メリットが多いと考える。外国語の学習者用デジタル教科書が小中学校全てに導入されており、同じ操作ができることもメリットと捉えている。

(教育長)

現在、東京書籍を使用しているが、変更しても特に混乱はなく、むしろ本市の小中連携やALTの活動、義務教育を9年間で見通した指導としてメリットがあると考えられること。子どもたちが、友達や教師とのやり取りを通じて英語の表現に慣れ親しんでいくという観点から、活用しやすい教科書であること。等から、英語は、「光村図書」がよいという意見であった。

【道徳】

[説明]

道徳科については、令和6年度以降使用小学校教科用図書見本一覧の中に、現在使用中の学校図書の掲載がなかったため、今回の採択により変更となること前提となる。

出版社は東京書籍・教育出版・光村図書・日本文教出版・光文書院・学研の6社で、日本文教出版の評価が高かった。

東京書籍は、安全・いじめ・情報・命・自分、という5つのユニットを設けており、いじめ・命・自分の3つは、いじめ防止のユニットで、学期ごとに取り組めるように配置されている。そのユニットの前には扉ページがついており、子どもたちが意識しやすくなっている。

教育出版は、テーマに沿って教材が固まっており、重点的に取り組めるよう工夫されている。問題解決的な学習を意識させるため、目次に「ちゃんと解決」という項目の記載があり、教材の最後に学習の手引を載せることで、子どもたちが意識して学習に取り組みやすくなっている。体験という項目が目次にあり、モラルトレーニング、役割演技など、体験的な学習を取り入れやすい教材がある。

光村図書は、道徳開きとしてオリエンテーションとなるものがあり、他社に比

べて見やすくなっている。学習する教材は、1番から順番ではなく、効果的な配置が工夫されている。話合いの仕方、道徳で使う言葉という記載があり、授業だけでなく、ソーシャルスキルトレーニングとしても活用できる。

光文書院は、へこんでも立ち直る力として、レジリエンスを意識したコラムがあり、子どもたちの自己肯定感を高めるような教材が意図的に盛り込まれている。巻末に見開きで、学習の記録ができる「学びの足跡」があり、毎時間記入することで子どもたちの学びを振り返りやすくしている。

学研は、テーマごとにマークがついており、目次や教材にそのマークをつけることで、今から何について勉強するのかを、子どもたちが把握しやすくなっている。教材文の最初に、その話のキーワードになるものを載せることで、子どもたちも興味を持ちやすくなる工夫がある。新型コロナウイルス感染症を扱った教材もある。

日本文教出版は、唯一、道徳ノートが別冊についており、ノートの内容は、記述に自由度があり、教員が使いやすいよう改良されている。いじめについては、3つのユニットで構成されており、学期ごとに取り組むことができる。他社にない特徴として、「ここにも道徳」というページがあり、日常生活のつながりを意識させ、道徳での気づきを自分事として考えやすくなっている。子どもたちの中で課題となっているいじめ問題や、情報モラルの問題もしっかり押さえられている。学んだことをどう生活に生かしていくかということも盛り込まれている。何を学習して、どんな知恵をつけていくのかが明確である。人権の視点について、人との関わりをどう考えるのかという問いの題材が多い。心のベンチというページで、道徳的価値を深める方法が記載されている。道徳ノートがあることで、児童自らの成長を実感させる記録が残り、1人1人を認め励ます学習活動の手がかりとなり、教員もそこで評価できる。等協議の上、「日本文教出版」の教科書が採択された。

[質 疑]

(藤原委員)

日本文教出版には、唯一、道徳ノートが別冊で残っている。他の出版社はQRコードから読みとって振り返りをする作りになっている。ノートの有無について、協議会で意見は出ていたか。

(事務局)

協議会で具体的な話はなかったが、代表調査員の報告には、「道徳ノートの内容は記述に自由度があり、教員の使いやすいように改良されている。」という標記があった。採択委員からは、「道徳ノートがつけられていることで、学習活動の手がかりや自らの成長を実感させる記録が残り、児童1人1人を認め、励ます

教師の評価にもつながるのでは。」という意見もあった。調査報告書には、「項目に主発問をなくして、記述の自由度がある。」という記載もあり、教科化となり、初めて使用した平成30年度の時と比べると、中身は大きく違う。

(西村委員)

採択委員会で、特に道徳で視点になるのがノートの有無と教材の冒頭の記載方法である。冒頭がタイトルだけの教科書や、視点や内容項目等が記載された教科書等、色々あるが、冒頭の記載内容によって、1時間の学習のイメージが伝わるかどうかということがある。日本文教出版には、4つの視点区分、内容項目、主題名、主題名をイメージするフレーズ、主な登場人物等が記載されている。教員の経験や子どもの学習のイメージづくりを考えると、こういった記載がある方が扱いやすく、適切であると考ええる。

(教育長)

まとめると、唯一道徳ノートが別冊でついている日本文教出版についてプラスの意見が多かった。冒頭部分で学習者や指導者が目標をきちんと立てて学習できること。「ここにも道徳」という日常生活で気づきができるような構成になっていること。人権的な題材が多いこと。等から、道徳は「日本文教出版」がよいという意見であった。

[採 決]

採決の結果、原案どおり可決された。

[会議の非公開]

日程第2について、教育長が議事の内容を踏まえ、会議を非公開とすることについて提案し、委員全員から同意が得られたため、会議を非公開とすることとなった。

○日程第2 議案第45号「令和5年度京田辺市立学校教職員（管理職）の人事異動について」

[説 明]

(事務局)

資料に基づいて説明

[質 疑]

なし

[採 決]

採決の結果、原案どおり可決された。

[会議を非公開とすることの終了宣言]

非公開事件の議事日程が終了したため、教育長が、会議を非公開とすることの終了を宣言した。

○閉会宣言

教育長が閉会の宣言をした。